

## 第5回雷別ドングリ倶楽部を開催

今年度最後の雷別ドングリ倶楽部を2月19日（水）に開催しました。

まず、来年度の日程と実施内容の討論を行いました。実施内容については、エゾシカによる食害が激しいこと、表土流出が見られることから、防鹿柵の設置及び現地のササを使用した粗朶束（そだたば）作りを設置を提案し、防鹿柵及び粗朶束の設置が会員の力でできるのか質問が出ましたが、いずれも軽作業で設置可能と説明し、了承されました。

次に、冬芽について座学で基本的な知識をおさらいした後、当センター周辺の樹木を使って、実際の冬芽の状況を観察しました。会員の皆さんには、冬芽は樹種により異なる姿を見せ、葉が落ちてても冬芽で樹木の判別ができることを改めて覚えて頂きました。

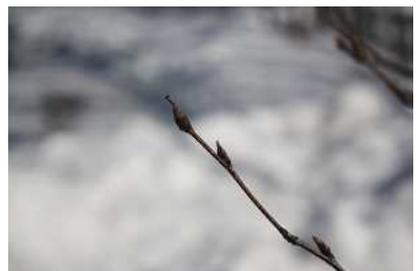
皆さん熱心に観察。



エゾニワトコ。頂芽が枯れ仮頂芽を形成。



ダケカンバ。これも仮頂芽を形成。



ミズナラ。頂生側芽を形成。



カシワ。ミズナラと瓜二つで見分け困難。



ヤチダモ。平らの部分は葉痕。



エゾヤマザクラ。頂芽と側芽のタイプ。



エゾノバッコヤナギ。仮頂芽を形成。



ハクサンシャクナゲの花芽。



\* 仮頂芽：頂芽が枯れて側芽が頂芽のようにふるまうもの。

\* 頂生側芽：頂芽のまわりを側芽が取り囲むもの。

\* 葉痕：葉が落ちて枝に残された痕跡。樹種により様々な特徴が観察される。